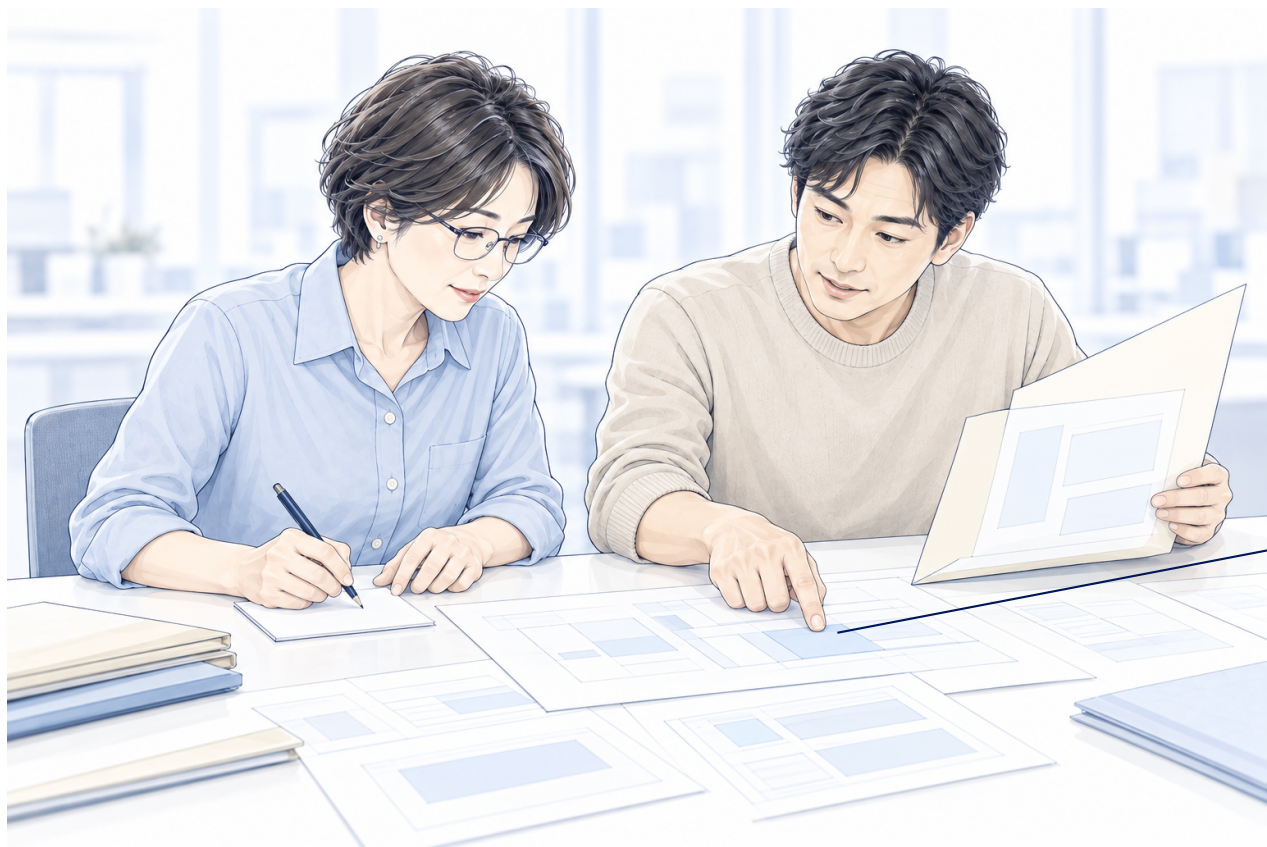


実感を、相手が仕事を描ける説明へ。

2021年5月31日発表。現場で見えた三つのずれから、開発した方法です。

「引き継ぎを徹底する」の先に、誰が何をする姿がありますか。



言葉は分かった。
でも、次にする仕事が
思い描けない。

受け手が見る
図面と変更点

例：受け手が図面と変更点を探す場面を、一緒に確かめる。

三つのずれから、説明を考え直す。

論理を整えることに加え、話す人の実体験と、相手が描く具体像に着目しました。

当時、見えていたずれ

一般論は正しい。
具体的な姿が見えない。

徹底・検討・企画。
実際にすることが浮かばない。

話す人の、実体験による
実感が伝わらない。

いま、自分の一件で確かめる

どこで、誰が、何をした
場面だろう。

次に、何をどうする
姿だろう。

何を試し、何に
反応したのだろう。

経験の実感を、相手が同じ場面を描ける言葉へ。

[原発表を読む](#)

少し踏み出し、自分の反応を観察する。

経験した場面をたどり、次の需要・取引・職務を考える材料へ変えます。

当時は、慣れた仕事で得る達成感・承認・自分で決められる感覚に比べ、未知の仕事への試行錯誤が後回しになることも見ていました。

01

少し踏み出す

慣れた職務の範囲から
少し外へ出て、
実際にやってみる。



02

自分の反応を見る

どの刺激に、
どう反応したか。
なぜ気になったか。



03

相手が描ける言葉へ

場所・人・もの・順序。
相手が具体的な場면을
思い描ける説明へ。

最近の一場で、どこに引っ掛かったか。まずそこから言葉にする。

「肌感覚」は、現場で見たり試したりして得た実感を指す当社の表現です。

「会議をよくする」。どんな終わり方に？

同じ言葉でも、描く姿によって、準備するものや確かめる問いが変わります。

意見や懸念が出そう

目指す姿

現場の気がかり、話せていなかった
懸念や見方の違いが出ている。

確かめる問い

「まだ話せていない
気がかりはありますか」

試す案・担当・期限が決まる

目指す姿

試す範囲、担当、
次に確かめる日が決まっている。

確かめる問い

「誰が、いつまでに、
どこまで試しますか」

「こちらに近い」「両方が必要」「ここが違う」「まだ分からない」。

二つの姿への反応から、今回は何をを目指すかを一緒に確かめます。

経験した一場面を、計画の中へ。

結果を表す言葉に加えて、実際にどう進めるかを描きます。

例：「意見は出た。でも、最後に案を比べる時間が足りなかった」

会議の前	会議の中	終わるとき
今回決めたいことと、 比べる案を共有する。	案ごとのよさ・懸念・ 必要な準備を並べる。	試す範囲と担当、 次に確かめる日を決める。

Pham・Taylor（1999）は、大学新入生を対象に、試験前に学習の過程を想像した条件で、学習への取り組みと成績の改善を報告しました。

職場の実践とは対象・方法が異なりますが、進め方を具体化する参考になります。

一次研究：Pham & Taylor（1999）

言葉にならないければ、近い仕事から。

まず一つの場면을眺め、気になった箇所を選ぶところから始められます。

二つの仕事の姿を見比べたい

会議や引継ぎの具体例から、目指す仕事の姿と問いを考える図解です。
最近の一件を思い出し、近い・両方・違う・まだ分からないから選べます。

[二つの具体的な姿を、図解で見る →](#)

いまの仕事から、短い例を見たい

「資料・文章をつくる」「仕事を引き継ぐ」などから、近い仕事を選びます。
短い場面を見て、持ち帰れそうなヒントを一つ眺めてみてください。

[仕事を見直す実践室を開く →](#)

[仕事の経験を説明・計画へつなぐ相談はこちら →](#)